

長岡市長記者会見要旨

日 時：令和2年6月26日（金）午後2時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【会見項目：新型コロナウイルス感染症対策

約20億円の補正予算を議会最終日に提案】

（市長）

新型コロナウイルス感染症対策として、6月議会の最終日に約20億円の補正予算を追加提案します。これは、感染拡大が落ち着きつつある現状において、感染拡大の第2波、第3波への準備をしながら、アフターコロナを見据えた市民活動や事業の再開を支援するためのものです。

予算額の内訳について、項目1が国の取り組みである、ひとり親世帯への支援事業費として2億5,685万円。項目2から6が長岡市の取り組みです。項目2が、地元産業、地域活動を活性化するための支援事業費として3億664万1千円。項目3が、教育・保育環境の整備費として10億1,995万5千円。項目4が各分野における感染拡大への防止対策費として9,290万8千円。項目5が台風などの災害発生に備えて、避難時の新型コロナウイルス感染症対策費として2億1,691万7千円。項目6が、その他の対策費として、1億297万2千円です。なお、今回で第6次となる新型コロナウイルス感染症対策の補正予算は、特別定額給付金など国の施策を除いた長岡市としての事業費が、総額で36億9,231万円となります。

今回の補正予算の内容について、多くの事業がありますので、抜粋して説明させていただきます。

項目1は、ひとり親世帯への臨時特別給付金として、国が全額費用負担をして、1世帯5万円、第2子以降は1人につき3万円を支給するものです。なお、長岡市として4月21日付の専決補正予算で、ひとり親世帯へ一律4万円を既に支給していますので、長岡市のひとり親世帯に対しては2回目の支給となります。

項目2の地元産業・地域活動活性化支援について、（1）の観光分野における緊急経済対策費用として1億4,565万円を計上しました。これは、大きなダメージを受けている観光分野において課題となっている、大規模イベントや施設の新しい運営への対応のための費用です。新しい生活様式を守りながら、できる形で実施していただくために、市として支援したいと考えています。

例えば長岡まつりでは、大花火大会が中止となりましたが、何らかの形で実施したいというそれぞれの行事の主催団体の意向を聞いており、感染拡大に配慮した長岡まつり2020特別バージョンを、各主催団体と調整しているところです。そのほか、資料にある実施未定のイベントも含めて、開催に向

けた支援をしていきたいと思っています。

(7) サテライトオフィス開設促進事業として5,523万5千円を計上しました。首都圏を中心とした大都市における感染拡大のリスクが顕在化したことにより、テレワークや在宅勤務、オンラインによる商売、生産拠点や業務拠点の分散化が注目されています。これらの地方分散の流れを長岡市としてしっかりととらえ、首都圏の企業などを対象に、本社機能の移転や、営業所、サテライトオフィスを誘致するため、開設のイニシャルコストと雇用拡大への支援として1社につき最大500万円の補助金を10社分用意いたします。

(10) 担い手育成総合支援事業として2,180万円を計上しました。これは、新規で農業に就いた方が新型コロナウイルス感染症の影響で営農を断念しないよう感染症対応のための経費などに対して、上限40万円の補助をするとともに、会社などを離職した方の就農受け入れ態勢を整備するために、失業者などを雇用した認定農業者が支払った賃金相当額に対して、上限10万円を補助するものです。そのほか、新規就農希望者と求人している農家を結ぶマッチング専用サイトも制作します。

項目3の教育・保育環境の整備について、(1) 温水設備整備事業として4億8,379万1千円を計上しました。これは、感染防止のために不可欠である手洗いを園児、児童にしっかりさせるために、自動水洗で温水が出る設備を整備するものです。

(2) 給食室の冷房設備、スポットクーラー整備事業として2億1,038万3千円を計上しました。これは、授業日数確保に伴い通常の夏休み期間中も給食を提供するため、暑い給食室などにおける熱中症対策として冷房設備を整備するものです。

(3) 放課後児童クラブのエアコン整備事業として546万円を計上しました。児童クラブにおいて、児童の密集を避けるため、現在エアコンが設置されていない部屋にもエアコンを整備するものです。

項目4以降は項目単位で説明いたします。項目4の感染症拡大防止対策については、事業者等へのマスク、消毒液などの配布や、医療機関に対して感染症対策物品の購入費等の支援を行います。また、PCR検査センターの業務に従事している医師や看護師の尽力に対して、長岡市医師会を通じて長岡市から報奨金を支給したいと思います。

項目5は災害避難時の新型コロナウイルス感染症対策です。水害などの自然災害と新型コロナウイルス感染症の複合災害が懸念されていますので、避難場所で使用する段ボールベッドなどの備蓄品や、3密対策で在宅避難している方の緊急避難の際に使う救出用ボートを配備するための費用として計上しました。

最後の項目6その他は、5月までの学校の臨時休校に伴い売り上げが減少した給食関係事業者への支援や、市の要請により休館した市有施設の指定管理者への支援のほか、感染拡大の第2波や今後長く続くと思われる感染症問題への備えとして、市職員がリモートワークなどをできるように行政ICT環境の整備を行うものです。

これからは、感染拡大の第2波や災害への対策をしっかりと行いながら、新しい生活様式と社会経済

活動の両立、アフターコロナに向けて、さらに必要な手当てをしていきたいと考えています。

このほかに、8月1日・2日・3日の花火打ち上げと市民一体となり想いをつなぐ取り組みについて、長岡花火財団の報道リリース資料を配付しましたので、ご覧いただきたいと思います。

(記者)

ひとり親世帯臨時特別給付金事業は、市独自のものですか。

(市長)

全国一律で行うものです。

(記者)

長岡まつり自体を中止という認識ですか。

(市長)

長岡まつり全体が中止ではありません。平和関連事業は実施しますし、花火大会以外の事業についても、それぞれの主催団体がやれる形を一生懸命検討していますので、長岡市としても支援をしながら、長岡まつり自体は実施したいと思っています。

(記者)

放課後児童クラブエアコン整備事業について、児童の密集を防ぐために、なぜエアコンを設置するのでですか。

(市長)

密を避けるために、今より多くの部屋を児童クラブで使いたいのので、新たに使う部屋にエアコンを追加で設置します。

(記者)

中学3年生2020メモリアル大会開催支援事業について、安全性の面から中学総体など公式大会が中止になっている中で、なぜメモリアル大会を実施するのか、安全性の担保などを含めて教えてください。

(学校教育課長)

中体連は、競技種目ごとにガイドラインを作成しており、各競技団体が大会の規模や競技の特性に応じて、大会を開催できる時期や規模などを決めています。それに伴って、県中体連は大会開催可否を判断していると聞いています。今回のメモリアル大会につきましても、基本的には中学校の部活動ですので、各種目においてガイドラインを遵守して、会場の分散化や、保護者の参加を3年生の保護者のみとするなど、感染症対策に最大限配慮しながら、中学3年生の部活動の区切りの場として行いたいと思っています。

(記者)

避難時の新型コロナウイルス感染症対策について、感染症対策と段ボールベッドがどのように関係するのか教えてください。

(危機管理防災本部 危機管理防災担当課長)

段ボールベッドにつきましては、床のほこりが舞い上がることにより感染するリスクがあるほか、床の上に直接シートを敷いて寝ることで体に相当負担がかかりますので、感染のリスクと体調の優れない方のケアという両面から整備を図ろうとしています。

(記者)

学校給食関連事業者支援事業について、各事業者に支給する金額や配分を教えてください。

(学務課長)

事前に関連事業者へ支援の必要性について調査を行ったところ、全118社のうち37社に支援が必要ながことが確認されました。この37社に対して、概ね利益相当額の90%を支援します。

(記者)

アフターコロナ対策のうち、特に市長が力を入れている事業は何ですか。

(市長)

サテライトオフィス開設促進事業については、いろいろなところに営業をかけて、結果を出したいと思っています。この事業は、長期的な長岡市への事業者参入につながるものと考えています。

(記者)

具体的に検討している企業はありますか。

(市長)

1、2社はありますが、10社を目標に誘致したいと思います。

(記者)

具体的には、誘致に向けてどのような営業を行うのですか。

(産業立地課長)

サテライトオフィス誘致支援業務委託として、会社の経営層と直接接触や交渉ができるような方に業務の一部を委託して、長岡に進出していただけるような企業の情報収集や、長岡の強みをアピールします。既に進出の相談をいただいているもの数件を含めて、連携しながら取り組んでいきたいと思っています。

(記者)

この第6次補正予算は、これまでの補正予算のうち、市の支出額としては最大と言えますか。

(市長)

はい。

(記者)

市議会の最終日に提案されて、審議する時間がきちんと取れるのか疑問があります。最終日になったという理由は何でしょうか。

(市長)

国の第2次補正予算の規模が分からなかったことと、これらの事業を組み立てる時間が必要だったためです。また、昨日、市議会の各会派に説明したところであり、最終日にそれぞれの委員会で審議いただきたいと思っています。

(記者)

イベントの開催について、昨年中止となった米百俵フェスなどの検討状況を教えてください。

(市長)

今は、開催が可能か検討している段階です。緊急事態宣言解除後の東京などの状況を踏まえながら、集客の対象や規模、新しい生活様式を守るためにどれだけのコストがかかるのかなどのシミュレーションをしているところです。

(記者)

このタイミングで、これまでで最大規模の予算を投入する狙いと、財源について教えてください。

(市長)

これまでは、持続化給付金などの国の支援が行き渡るまでのつなぎとして、市が必要なものをできるだけ早く投入することを考えていましたが、今回は、アフターコロナ対応と、感染拡大の第2波への準備という部分を狙いに含めて予算を組みました。

(財務部長)

19億9,624万3千円の財源については、地方創生臨時交付金が15億4,306万2千円、残りが国庫支出金と県支出金です。

(記者)

国の財政支援は足りていると考えていますか。

(市長)

必要な部分は手当てされていると感じています。ただし、市の歳入や地域経済への影響が出てくるのはこれからだと考えており、そこまで国がしっかり意識しながら、手当てして欲しいと思っています。

(記者)

観光分野における新型コロナウイルス緊急経済対策事業について、感染終息後を見据えた新しい運営ノウハウをどのように蓄積するのかなど、具体的な事業のイメージを教えてください。

(観光事業課長)

各イベントでは、既存の予算に新型コロナウイルス感染症対策に要する費用を含んでいないため、これらの余分に発生する費用を支援します。また、来年の長岡まつり大花火大会の開催に向けて、米百俵フェスなど長岡花火を打ち上げるイベントで大花火大会を想定した感染症対策を行い、効果などの検証を行いたいと考えています。

(記者)

長岡市としては、どのようにしてイベントや行事を再開していく考えですか。

(市長)

例えば当面は、新しい生活様式にのっとり、観客数を半分に、距離を2メートルとれるようにしたうえで、地元の方の参加のみにして、問題がなければ、首都圏などの感染状況に注意しながら市外の方の参加もできるようにするなど、確認しながら段階的に再開していくことになると思います。夏や秋のイベントシーズンに向けてガイドラインのようなものを示していきたいと思っています。現時点では、新しい生活様式をきっちり守った中でできることをやっていきたいと考えています。

(記者)

市としてもイベント開催などのガイドラインを示したいということですか。

(市長)

そういうものの考え方を示していきたいと思っています。

(記者)

本日の読売新聞の記事に載っていた悠久山小動物園の件について、概要と処分の妥当性についての市長の考えを教えてください。

(市長)

昨日、教育委員会から報告を受けた内容は、平成30年5月に悠久山小動物園で飼育していたタヌキのつがいに5匹の子どもが生まれて7匹になった際に、飼育舎が狭くなったため飼育員の判断で、同年10月に5匹を八方台に放したということです。これは動物愛護法違反の行為であり、教育委員会として長岡保健所、長岡警察署に相談し、その後の司法手続きにおいて最終的に起訴猶予となったため、教育委員会は職員を厳重注意処分にしたというものです。懲戒処分等の公表基準に照らし本件は公表しなかったと教育委員会から説明がありました。私としては、このような不適切な行為があったということは本当に残念だと思っており、市民の皆さまにご心配、ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。処分の公表については教育委員会の考え方を是としたいと思いますが、こういう事案があったということは、公表すべきだったのではないかという思いもあります。今後、再発防止に向けてしっかりと対応するように教育委員会へ指示いたしました。

(記者)

読売新聞の記事の中に、施設管理を考えての行為だったためという内輪の理由で処分を軽くしたように受け取れる部分がありましたが、これについてどのように考えていますか。

(市長)

内部の論理が出てくるのは好ましくないと考えています。教育委員会として、公表の問題も含めて検証してもらう必要があると思っています。

(記者)

悠久山小動物園の職員がタヌキを放った件について、処分や事案の公表の仕方を、今後、教育委員

会ではどのように検討していく方針か聞かせてください。

(教育部長)

全市的な懲戒処分の公表基準がありますので、教育委員会だけではなく全市との均衡も考慮しながら検討したいと考えております。

(記者)

懲戒処分に相当しなくても事案の内容によっては、訓告、嚴重注意であっても公表することがある中で、保健所からも市民に隠蔽を疑われないように公表すべきと指導されたにもかかわらず、公表しなかった理由を教えてください。

(教育部長)

本事案については、長岡保健所と警察に速やかに報告はさせていただきました。それから、保健所から公表すべきとの指導はありましたが、私どもとしては違法性の程度を見極めてから判断しようと思いましたので、その後の検察からの不起訴処分を受けてから対応いたしました。

(記者)

今回の判断は、妥当だったと今でも考えていますか。

(教育部長)

判断をした時点では適切だったと思っていますが、その後に受けた指摘を含めて今後、検討していく必要があると考えています。

(記者)

大花火大会を中止した中で、どのような思いで花火の打ち上げをするのかと、市民の皆さんには、どのような気持ちで光の点灯に参加してほしいかを教えてください。

(市長)

全体については、長岡花火財団から考えをお話してほしいと思いますが、長岡まつりの意義は、もともと慰霊と平和、復興祈願です。私は大花火大会が新型コロナウイルス感染症によってできないとしても、長岡まつりの趣旨は、貫徹して継続すべきだと思っています。関係者の皆さまもそういった思いで可能な限り長岡まつりは実施するために検討している中で、8月1日に白菊3発、そして2日、3日に慰霊と平和への祈りの花火10号3発と新型コロナウイルス感染症終息を祈願する花火1発を上げるということは本当にうれしく思いますし、市民の皆さまからも認めていただけていると思います。

(記者)

今月19日に県外への往来自粛が解かれ、知事は県外出張されていましたが、市長は、県外出張しましたか。

(市長)

まだ県外出張はしていません。また、当面する予定は入っていませんが、市政を進めていく上で

願いや打ち合わせするべきところがありますので、これからは入れていきたいと思っています。

(記者)

感染予防と社会経済活動の再開という観点での質問です。夜の飲食店はまだまだ人が戻らないという悩みを抱えていると思いますが、市長自身は、夜の会合は解禁されていますか。

(市長)

解禁や禁止ということではありませんが、出ていません。これからは、市長として出席する会合には出てきたいと思っています。

(記者)

職員向けの飲み会参加のルールはありますか。

(市長)

職員に対してルールなどで制限はしていません。ただし、大勢で集まったり、市外の不特定多数の人を交えて飲食したりするのは慎重にすべきだと思っています。新しい生活様式に沿って、感染対策をしているところに、家族や地元の友人と集まる小規模なものは問題ないと思っています。